



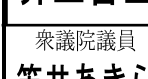
市議会議員 砂田喜昭 Tel 67-4322



衆議院議員 藤野保史



参議院議員 たけだ良介



参議院議員 井上哲士

衆議院議員 笠井あきら

6月議会 砂田市議の一般質問



学校統廃合を止め、教員・講師の増員拡充を

国が教員増加を拒んできた

【砂田市議】 林議員への答弁で、過労死ラインを超えた時間外勤務80時間超が13人、110時間超が12人と報告があった。しかも一部教師だけではなく、全教員の平均残業時間が56.1時間や53.4時間である。残業時間が多少減ったから良かったでは済まない。国が教員を増やさなかったことに根本原因がある。少人数学級へむけた国の教育再生実行会議答申をどのように受け止めているのか。

【教育長】 6月3日に公表された提言では、1学級あたりの人数について5年間で40人から35人に引き下げる内容である。より長期的視野に立つて踏み込んだ内容を示されると期待していたが、そのような言及がなかったことは残念である。

市の小中学校統廃合審議会で「1学級あたりの望ましい児童生徒数は、20人から30人程度」、「学級規模については小学校では1学年2学級以上、学校全体で18学級以下、中学校でも1学年2学級以上維持できる規模」との答申をもとに検討していく。

統廃合すれば 30人を超える学級に

【砂田市議】 学校を統廃合して1学

多人数学級支援講師の廃止反対、拡充こそ

【砂田市議】 教育委員会は「小矢部市が独自に31人以上の学級に配置してきた教師」多人数学級支援講師は、県内他市町村に先駆けた取り組みであり、その効果も各方面から高く評価されている。「各学校からも強い要望が寄せられていた」と認めていた。教育行政としてこれほど効果のあるものを、単に財政問題で廃止するということは、「教育100年の計に照らししても許されない。」

年2学級以上にすれば、1学級30人を超えて35人学級が増えるので、望ましい30人程度を超えるから、統廃合をしてはならない。

競争を強いる日本 自己肯定感を もてなくされている

ある程度の規模の学校、学級でないと切磋琢磨できないなどというスローガンは本来の教育にふさわしくない。

「私は価値ある人間だと思おう」高校生の割合が日本44.9%に対して、アメリカ83.8%、中国80.2%、韓国83.7%(国立青少年教育振興機構2018年高校生との心と体の健康に関する意識調査報告書)である。競争を強いる日本の教育の結果、自己肯定感をもてなくされている。

個性を伸ばせる 学校こそ大切

一人一人の子どもの特徴をつかんで、その個性を活かすことこそ大切である。大規模校だと校長先生がすべての子どもの状態を把握できないし、学校の先生達も担任の学級だけでなく全校児童生徒の特徴をつかんで、教師集団として対応できる必要がある。そのためにも小規模校が重要である。



多人数学級支援講師は担任教師の授業支援ができる。小中学校全学年が30人以下学級に移行し、それにふさわしい教員配置が行われるまでは、どうしても必要ではないか。拡充こそ必要だ。

【教育委員会事務局長】 毎年小中学校校長会からは対象学年拡大の要望が出されているが、厳しい財政状況の下、来年度から廃止し、スタディメイト派遣事業で対応したい。

教員・講師・スタディメイト 配置に市は予算を

【砂田市議】 市長に聞きたい。多人数学級支援講師は、校長からも全学年に広げて欲しいといわれている。こんな良いことを、わずか1人や2人の人件費を削るために止めてしまおうのは問題だ。小矢部市は「教育100年の計」で子どもたちを立派に育てていくためにも、多人数学級支援講師の廃止を止めたらどうか。

【桜井市長】 今ご指摘いただいたことは毎年校長会から重点要望をいただいている。スタディメイトは多人数学級支援講師の役割を十分に担える人材だと考えている。

【砂田市議】 確かにスタディメイトを担っている方々はほんとうに立派な人たちだが、多人数学級支援講師の役割を果たしてもらおうためには、予算をつけて勤務条件を整えねばならない。何億円も予算がかかるわけではなく、1千万円もかかるかどうかだ。国が30人学級にするまで、小矢部市は独自にがんばってもらいたい。



スタディメイト 多数配置の小矢部市に驚嘆の声

【砂田市議】 スタディメイトは、子どもたちの実態をつかみ、サポートすることでは重要な役割があり、小矢部市では各校の実態に合わせて多数配置していることはたいへん大切なことではある。県内他市では1校1人配置が多い中で、小矢部市が必要に応じて1校8人配置もあることに感嘆の声があがっている。

教員をどこまで支えられるのか

しかし、教員の補助的役割は果たせるのか。例えば連絡帳や保護者からの意見などを事前に見て、その対応についての分類をするとか、宿題の状況、スクールバス通学で疲れた子どもに対応とか、担任の支援ができるのか。教員の声をしっかりと聞いて、改善策を考えるべきでないか。スタディメイトでそのようなことができるのか。

【教育委員会事務局長】 スタディメイトは今年度、全小学校に計24名を配置している。

その役割は発達障害などにより通常級において支援が必要な児童の対応や身体的な障害のある児童の日常生活の支援を主な役割としている。スタディメイトの業務には学習支援との関連性があるので、多人数学級運営支援についてスタディメイトで対応したい。今後の予算編成の中で、できること、できないことを整理して、スタディメイトで対応したい。